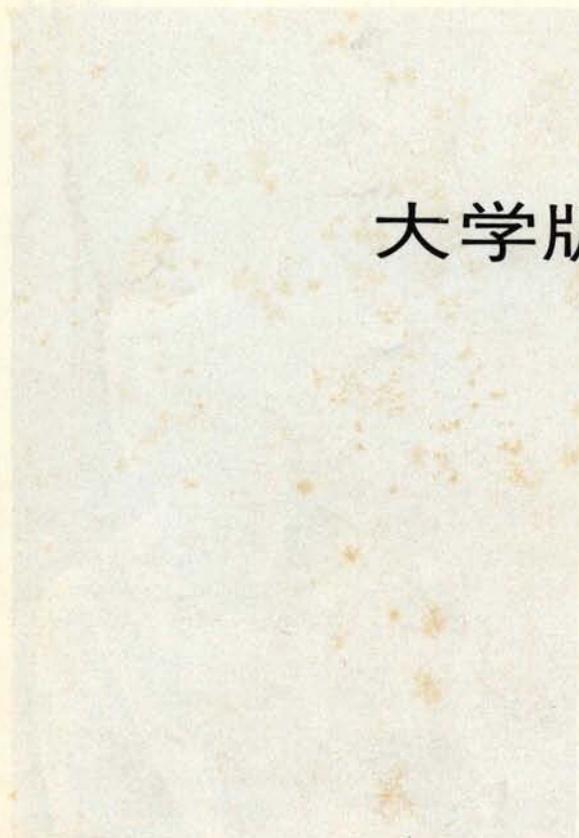


大学版画研究会 会報 2

1977.8



駒井のこと

東京芸術大学教授
野見山暁治

こんな交友があるだろうか。わたしが駒井と顔を合わせてからお互い口をきくまでに十年近くかかっている。十七才のわたしが九州の田舎から上京して、画の研究所に入ったときに慶応の帽子をかぶった駒井が居た。

オレたちは同級生だよな。二十年ぐらいたって駒井もわたしも、気軽にそう周囲の人々に喋るようになったが、長かったその無言の日々をお互い、息をひそめて見つめあっていたようなところがある。もともと駒井は内に秘めるたちの男でもあった。

校庭の片隅にあっとうす暗いバラックの版画工房のなかで、駒井はひとり終日動いていた。動いていたというのはおかしいが、版画の工程はわたしには全く解らないことだったので、どんな事しているのか、色んな道具や機械にはさまれて狭いところをただ動いていた印象だけがある。銅版画というものが未だ人には知られず、一般画学生のわたし達にも縁遠い時代だったので、ただ営々と動いている駒井が、あの瘠身のせいもあっていっそう孤独な青年に見えた。それにしても小さい窓から弱い光のさしていたあの版画工房は象徴的だ。それは日本の銅版画が、やがて陽の当る場所に置かれるすぐ以前のことであったが、当人たちはそれを予言されてはなかった。

戦争のさなかに迎えた卒業制作展での駒井の油画による自画像をわたしは忘れない。漂白されたような光のなかにヌーッとつき出た陰影の塊は、わたしの知らなかった駒井、江戸の粹さとは違った、西欧の古びた壁の重みみたいなものを憧れている東洋人だった。



写真提供・渡辺達正

不確かな技術の手応えを捩りどころに、うすい銅版の一枚一枚をまさぐるように刻んでゆく開拓者の寄るべない心情が、目まぐるしく変転する海の向うの時流にときとして押し流され、ある時はその背後の伝統の重みに揺れ動いていた、その悲しさが今は残る。駒井がわたし達のまえから去ってまだ遠くはない。

教大協第二部美術教育部門委員
大学美術教育学会理事長

三橋文雄

昭和49年頃であったであろうか、大学版画研究会発足準備会が芸大の版画研究室で開かれ、駒井哲郎氏、吹田文明氏の依頼もあり大学美術教育学会から国領経郎氏、小生三橋文雄が出席させて戴いた。

前記二氏の他大勢の大学版画担当の先生方が参集され熱気に溢れ盛大であった。駒井哲郎氏は舌癌の手術の後とかで全然声が出ず、手ぶり目ぶり等で会話されていた。大学美術教育学会の会則等が参考にでもなればと思い後日吹田文明氏宛郵送した。爾來大学版画研究会が着実な歩みを続け発展して居りますことは誠に喜ばしい事であります。

歴史的にも個性的で深く高い基礎を有し、又現在でも国際的に高い水準にある我が国の版画界が更に底辺を上げ民族の生活の一部と深いかかわりを持つに至らしめることは、大学版画研究会の使命の一つではないかと考えられます。種々の面に於て更に深化拡充され、増々大学版画研究会の御発展されることを祈念して止みません。一言祝詞を申し上げます。

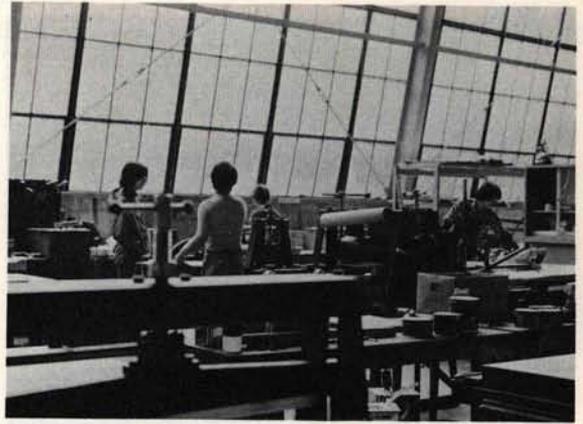
吹田文明

昭和49年発足以来多くの方々のご尽力によって大学版画研究会も順調に進み、第2回の大学版画展が開かれるはこびとなり喜びにたえません。

当初の美術大学に版画科を設置するという単一な目的から、大学に於ける版画の研究を中心に大学版画学会に作り上げることで組織的に日本の版画教育が学問として根付くことと期待に胸をふくらませております。それには会員一同の努力もさることながら、多くの先輩のご指導ならび理解あるの方々のご厚意に助けられる以外にありません。

発足当初、会長駒井哲郎氏と共に美術大学に版画科設置要望書を提出し、50年には版画協会共々国立版画美術館設置の要望書を文化庁に働きかけて来ました。その間、東京芸術大学には学部3年より版画専攻コースが作られ、女子美術大学には初の版画科1年生が誕生しました。制度の上でも大きく発展し、版画家の専任教員もその数を急速に増しております。

その出発の途上会長駒井哲郎氏を失ったことはこの上ない痛根事でありました。思えば45年東京芸術大学に就任するまでの8年間東京芸術大学、多摩美術大学の版画教室の指導にあたり、大学版画研究室への道を開いて来られました。多摩美術大学に44年吉原英雄君をお呼びした帰り、駒井、吉原、吹田の3人で大学に於ける版画教育の道を開くために努力しなければならないと熱っぽく話す中で「その通りだが僕はもう疲れたよ。」と、ぼつんと駒井さんが言われた言葉を忘れることが出来ません。それは日本の版画の惨担たる姿の中で怒りに努力を重ねつくし、疲れ果てたつぶやきであったからです。その道が漸く開き始めた時彼を失ない、月日と共に力の抜けて行く気持ちをどうすることも出来ませんが、今一度勇気を振り起して会員一同大学版画研究会の未来を作りたいと模索しております。多くの厚意あるご助力、ご声援を重ねてお願いする次第です。



東海大学教養学部

山野辺義雄

本学は教養学部芸術学科美術学課程の名称のごとく、学問と実技の二つの系列から成り立っている。一、二年次では両系列の基礎的教科目を行い、三、四年次に於いて、そのいずれかを選択する。学問系列を選択した学生は卒業論文で、実技系列を選択した学生は卒業制作で卒業研究の諮問を受けることになる。

実技系列に於ては、版画、油絵、彫刻の三コースがあり、学生はそのいずれかを選択し受講する。

版画コースに於ては、「版画で何を、如何に表現するか、を探究すること。」を目標として勉学するが、「視て描くことから視ないで描くこと。」へのアプローチとして、下記にカリキュラムの概要を記す。

- 一年次 石膏像、人体を描写するを主体として行う。
- 二年次 モチーフを細密に観察し、記録することを行う。
- 三年次 模写（自作細密画）、模刻（自選した作家の作品）を銅版、石版で行う。
- 四年次 版画集制作、卒業制作を行う。

実技系列の授業は造形Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで行うが、他に実技のゼミナールがあり、各実技コース別に表現の内容を検討する。

一学年、三十名の学生数があるが、版画コースを選択する学生は毎年約五、六名である為、学生個々の成長課程に沿った版画の教育を行っているのが現状である。

東京造形大学

馬場構男

東京造形大学では創立当初より現代美術における版画の重要性を認識し、版画教育の充実を目差し、絵画専攻の必修単位として石版、銅版、孔版、木版の実習をカリキュラムに組んでいる。

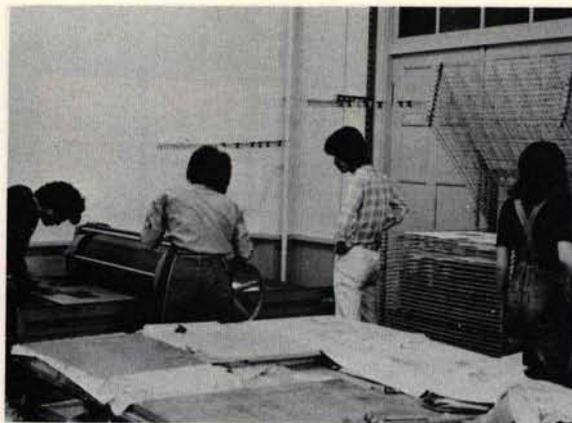
1970年、3、4年生対象に版画ゼミを設け版画を専門に勉強する者を集め研究の便を図った。その後1972年に同じく3、4年生対象に具象、抽象、版画の3コースを設け各コース自由選択とした。これによって従来より充実した版画研究の途が開かれた。

現在では第1年次で石版の基礎実習を、第2年次で銅版画及び孔版の基礎実習を行っており、その内2版種の修得が絵画専攻の必須条件である。

3、4年生はコースⅠ、Ⅱ、Ⅲの内いずれかを選ぶことになっており、コースⅢが版画専門であり、3年生は石版、銅版の各種技法の修得を行い、4年生は版種自由選択で夫々研究を進め、卒業制作を行っている。

更に卒業後研究を続けようとする者には1年間研究生として版画制作を行うことが出来るようになってきている。

版画工房の施設としては石版画プレス5台、銅版画大型プレス2台、孔版印刷用設備及び写真整版用設備を有している。目下コースⅢ希望学生数の増加に伴い、工房施設並びに教室の拡充が急がれている。



京都市立芸術大学

舞原克典

- '63年 古野由男、吉原英雄両氏を非常勤講師に迎えて、西洋画科の中に年間3ヶ月の集中実技としてスタート。
- '70年 吉原専任となり、非常勤2名を加えて全学の共通実技教室となる。
(2単位×年間4講座、学生数90名及び、西洋画科生のみ6単位の版画制作が出来る様になる。)
- '71年 専任2名、非常勤2名に増員。
- '72年 ささやかながら版画研究室を得る。
(西洋画の他に日本画、彫刻科生も希望者は受講できる様になる。)
- '73年 暗室完成し、シルクスクリーンの写真制版による制作が可能となる。
- '77年 3年後の移転が決定し、その時点で版画専攻として独立の予定。
- 版画基礎 全学の2回生以上を対象とし、石版、銅版、シルクの基礎的な技術の体験を目的として1ヶ月で6点の提出を義務づける。
(学生数延70名)
- 版画制作 基礎を終えた者で、日本画及び西洋画科の学生が受講出来る。各版種を選択及び併用による制作。内容、点数等自由。
(学生数延40名)
- スペース 石版室(100m²)、銅孔版室(100m²)、暗室(10m²)、研究室(12m²)
- 設備 リトプレス6台、オフセット校柁機1台、エッチングプレス3台。製版カメラ真空焼柁、スクリーンテンショナー、乾燥機。
- スタッフ 専任(吉原英雄、舞原克典)
非常勤(中井富士子、田中孝)

日本大学芸術学部

樋口順治

- 日本大学に於ける版画コースは、昭和47年以降に、絵画科及びデザイン科ヴィジュアルコースに各種のプレス機及びシルクスクリーン印刷機を設置し二年間の模索期を経て、49年以来次の通り位置づけられている。
- 絵画専攻学生は、全員二年次に版画実習を履習する事になっている。これは、基礎的な版画制作を体験的に履習し、各種の版型の理解を深める程度のもので、三年次以降に版画専攻学生としてその専攻に進むものとしている。後期二年間に木版及びシルクスクリーンを履習し、しかるのちに卒業制作を版画で行うことになっている。
- 版画実習指導員は、次の各師に依って行われている。
技術員 有地好登
非常勤講師 上野省策 原健 小山松隆

ハンブルク美術専門学校の腐蝕室、引戸のついた吸入孔が上下にある排気ダクト（塩化ビニール製）。
腐蝕台はアクリル板の上下スライド式で、印刷部門のスペースと区別される。

表中、劇薬の有害性は、労働省安全衛生部監修の、「危険、有害物便覧」を参考にした。もちろん我々が使用する量は、工場などで使用する量とは比べべくもないが、注意を喚起する意味で詳述した。

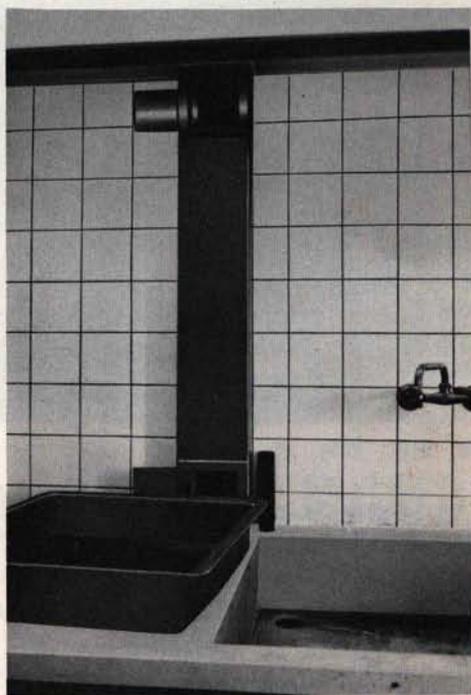
〔換気〕

腐蝕反応で発生する有害ガスの他に、絶えず蒸発している硝酸や塩酸の蒸気に注意。強酸の蒸気は、吸入した場合、気管の粘膜上で再び強酸として粘膜を刺激するからである。教育の場に於ては、描画する場所と区別して腐蝕の場所を隔離すべきであり、その施設も強制排気が行える腐蝕室とし、ガスや蒸気を室外に流れさせないという配慮が必要である。又、発生するガスや蒸気は空気より比重が重いので、換気扇を部屋の上部に取り付けるのは有効でなく、なるべく腐蝕バットの近くに吸入口を設けるべきである。（写真参照）ついでに言えば、腐蝕室の流し台は塩化ビニールがふさわしい。又、流しの一つに眼を洗滌出来る器具を取りつけるべきである。

〔中和〕

強酸の中和には、炭酸ナトリウム（炭酸ソーダ）、重曹、アンモニア、力性ソーダなどがあるが、危険性がなく扱い易い点で、消石灰を使いたい。そしてどんな場合でも、多量の水で洗い流すことの有効性を知って欲しい。20数倍に薄めた腐蝕液は、胃液やソフトドリンク程の濃度になってしまう。版を腐蝕液から取り出して洗う時は、その前後に多量の水を流すとよい。

廃液の中和は次のように行う。ポリバケツのような口の広い容器に少量の中和しようとする廃液をとり、先づ十分に水で稀釈し、その中へ消石灰を除々に加えながら静かにかきまぜる。わずかな中和熱とアワを発するが心配はいらない。時々Ph万能試験紙（ロール型）を少量切りとって液に浸し、中和の度合いを計る。Ph 6~7になれば中和は完全で、下水道



に流しても差しつかえない。アンモニアで中和する場合は、相方を十分に水で稀釈しておいてから混ぜ合わせるようにする。塩化第二鉄液の場合は、強酸の混入がない場合、上澄みの比較的透明な部分はそのまま流してよく、沈澱物は新聞紙などに包んで台所のゴミなどと一緒清掃局に運んでもらうとよい。強酸の混入された塩化第二鉄液は、やはり消石灰で中和する必要があるのはもち論である。ただ、いずれの場合にしても、溶け出していた銅や、亜鉛という金属は消えてしまうことはないので、そのことは考慮に入れておくべきである。

今後の問題として、美術大学に於ては、金工で扱う重金属類、陶器の釉薬や油絵具に含まれる有機顔料等、汚水処理のための浄化槽の建設を計画すべきであろう。

次回からは、¹腐蝕液別による腐蝕効果、²有機溶剤の有害性とその対策、と稿を進めたい。なお、これらの素材研究に際して、東京芸大の保存科学研究室の杉下教授並びに東京工大の田畠助教授にご協力をいただいたことを、お礼を申し上げると共に報告させていただきます。

▶第1回展覧会報告



渡辺達正

1976年10月11日～16日迄大阪フォルム画廊東京支店に於て、18校より83点の作品が展示され、第一回大学版画展が行なわれた。

これは大学版画研究会が1974年12月発足以来初めての企画であり、それは日本の大学に版画科がなせ今迄出来なかったのだろう、という所から出発し、大学で版画を指導する作家と研究制作を続けている助手が、会員となり研究会を重ねる内に、この状況を大学等で制作実習をしている学生にも、社会にも広く知ってもらうために、版画展を開いたわけでした。展覧会に於ては、都内の大学がそれぞれの係を分担していった。「ポスター・案内状係—芸大」「搬入搬出係—多摩美大」「レセプション係—女子美大」展示は各大学会員、大阪フォルム画廊の方によって行なわれました。各係の方々の御努力と御苦勞により、最初の展覧会とは思えない順調な運営となり、初日には大学版画研究会会員が集まり総会を行ない、展覧会中に一つの盛り上がりをつけ学生の刺激にもなるので買上げ賞を設ける事となり、参加大学の出品作品の中から、会員全員の投票において20名前後の人に賞をあてる事となりました。賞の有無の問題もありますが、参加学生への奨励として良いのではないかと思われました。展示作品には、すでに団体展、個展等で知られた学生もいましたが地方の学生でも素晴らしい作品があり、学生にとっても、私達にも作品を通しての交流の場であったわけです。

企画スタッフは馴れない仕事に力一杯努力したつもりですが、閉会した後にはほっとしたのと同時に、なんだか一方通行であった様な気持が残ったのはこの種の外部への発表ということに馴れないせいでしょうか。

▶経過報告

東谷武美

昭和51年10月10日。第10回会合。大阪フォルム画廊に於て。第1回美術大学版画展搬入日。飾り付け終了後、全員で買上げ作品審査。

同年11月9日。第11回会合。女子美術大学に於て。美術大学版画展の所感。大学版画研究会の今後の進め方を検討するが、明確な姿勢が定まらず次合で検討。

昭和52年1月20日。第12回会合。芸大版画研究室に於て。駒井哲郎会長の葬儀報告。後任会長は総会によって決定する事。総会は年1回とする。運営委員会の発足。運営委員は事業、運営の企画に携る。第2回美術大学版画展開催決定。(相談役 小作青史氏) 大学版画研究会は今後、大学に於ける教育の情報交換の場とする等を協議。

同年4月24日。第1回運営委員会。芸大版画研究室に於て。大学版画展の打ち合せ。総会の期日。会計監査。会報及び会報編集委員。名誉会員、顧問、相談役等を次回会合の議題とする。会報の内容としては各校のカリキュラム公開、公開技法講座、素材研究、公害対策等を織り込んで大学版画研究会の姿勢を打ち出す。

同年6月2日。第13回会合。武蔵野美術大学に於て。美術大学版画展は現在21校の申し込みが有り出品点数を増やしてほしいとの要望が強い。会場の都合上昨年と同数と決定。各校より学生責任者を選出し運営に当たってもらう。会長、相談役、顧問は、版画教育に携わり功勞の有った人たちを対象と考え各大学より12名推薦し、第2回美術大学版画展の会期中総会に於て承認する事。会計監査(斉藤寿一氏、宮下登喜雄氏)承認。会報は第2回美術大学版画展の会期に合わせ早急に発行する事。その為の編集委員決定(清塚紀子、原健、鎌谷伸一、小野克子、松川幸寛)。この他運営委員を助手の中から2名選出を承認。会議終了後、武蔵野美術大版画室見学。



田村文雄

「カリキュラム私案と女子美カリキュラム」

研究会が発足して以来、これまでいろいろな問題を考えてきた中でカリキュラム私案は最初の時期における具体的な成果の一つである。

しかしながら現時点においては版画のもつ意味、版画の大学における在り方、方向性の変化、各大学における現行の授業形態等を考え合わせると今後の問題としてもっと内容的に、かつ新しい方向に沿った上で更に検討を重ねていく時期にあると思う。又現在女子美大において私案を基にしたカリキュラムによって二年目を迎えており、私案と実際との間で幾つかの問題が指摘される。以下はカリキュラム私案の概要と問題点を記す。

カリキュラム私案

- 一・目標 版画を通じて造形活動の専門家、合せて版画教育者、版画技術者の養成を目標。
- 二・形体 一、二年次は基礎として油画科と提携して行う基礎造形—素描、着彩。
版画思考からの課題—イメージ構成、立体造形。

版画の基礎技術の習得。銅版（エッチング）、石版（直接法）、木版（主版法による多色刷）、孔版（カッティング）。

三、四年次は専門課程として各技術の習得と創作法を学ぶ。素材研究、セミナーによる現代絵画、画集制作、卒業制作。学科は共通。二年次から三年次への時点で版種専攻、編入試験（版画と他科との相互編入）。大学院版画専攻を設ける。

三・入学試験 独自に行う。

素描、課題によるイメージ表現。学科3科目。

以上がカリキュラムの骨子であるが、女子美大での実際面で主に問題となったのは油絵科との提携（入学試験時から単独に行っている）。編入問題。実際の単位数、内容の違いなどにより編入資格は限られる。学科における選択科目（版画史の方法）の問題などがあげられる。

別表は女子美大版画科カリキュラムである。

▶洋画専攻(版画)、専門必修履習表(その他選択科目有り)

1年次 20単位	2年次 16単位	3年次 12単位	4年次 16単位
版画5 銅版2 エッチングによる自画像 石版2 単色刷 木版1 主版多色 木口木版 素描イメージ構成4 描写力2 構成力2 油彩 I 日本画 I 水彩 I 美術解剖学 (I) 4 西洋美術史 (I) 4	版画5 銅版2 各技法、模刻 石版2 多色、転写 孔版1 素描イメージ構成3 描写力2 構成力1 油彩 I 日本画 I 水彩 I 立体造形 I 西洋美術史 (II) 4	版画9 画集制作 銅版 石版 木版 孔版 彫塑2 素材研究 (I) 1 美学又は芸術学4 版画史	版画5 専攻別 彫塑2 素材研究 (II) 1 卒業制作8 セミ、その他

第1章 総 則

第1条 本会は大学版画研究会と称する。

第2条 本会は会員相互の協力により大学に於ける版画教育の進歩発展をはかることを目的とする。

第3条 本会の事務所は大学の版画研究室におく。

第2章 事 業

第4条 本会は第2条の目的を達成するために下記の事業を行う。

1. 機関誌、出版その他、研究調査に関する事業
2. 研究協議会の開催
3. 研究のための専門委員会または部会を設けることがある。
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

第5条 本会は会員を似て組織する。

第6条 会員は大学に於て版画教育にたづさわる者で入会の手続きを完了した者とする。

第7条 会員は別に定められた会費を納入しなければならない。

第4章 組織及び運営

第8条 本会の事業を運営するために次の役員をおく。

1. 会 長 1名
2. 事務局長 1名
3. 運営委員 若干名

第9条 会長は本会を代表する。

第10条 事務局長は庶務、会計、事務を総括する。

第11条 運営委員は事業、運営の企画を執行に当る。

第12条 本会に名誉会員、相談役、顧問、賛助会員をおくことが出来る。

第13条 役員は総会において選出する、任期は2年とし再任を妨げない。

第14条 本会の会議は総会、運営委員会、専門委員会とする。

1. 総会は年1回開き、本会の事業および運営に関する重要事項を審議決定する。会長は必要に応じて臨時総会を召集することが出来る。
2. 専門委員会は内容に即して会長が召集し案件の作成、審議に当る。
3. 運営委員会は会長が召集し、本会運営の企画に当る。

第5章 会 計

第15条 本会の経費は会費及び賛助会費をもってこれにあたる。

附 則

1. 第7条による会員の会費は年額2,000円とする。
2. 運営のために必要な細則は別に定める。
3. この会則は昭和49年11月3日よりこれを施行する。

賛助会員規程

賛助会員には版画作品を提供致すとともに本会の機関誌に広告を掲載する。

▶ 会員名簿

相沢美則	杉並区久我山5-1-22 〒168 TEL	文化学院	島田章三	愛知県愛和郡長久手町芸大公舎5号 〒410-01 TEL 05616-2-0885	愛知芸大
有地好登	所沢市安松221-1 〒359 TEL	日大	白木俊之	長野市川中島町今里868-15 〒381-21 TEL	信大
東谷武美	目黒区碑文谷4-18-12 葉月荘 〒152 TEL 03-716-1907	芸大	田村文雄	小平市学園東町26-45 〒187 TEL 0423-43-7282	女子美大
稲田年行	町田市三輪町1939 〒194-01 TEL 044-988-3339	岐阜大	高橋貴和	宮城県名取市名取ヶ丘5-1-1 〒981-12 TEL	宮城大
今井治男	多摩市関戸547 シャルム聖蹟桜ヶ丘201 〒192-02 TEL 0423-73-0600	弘前大	中林忠良	埼玉県上福岡市駒林437 〒356 TEL 0492-63-1970	芸大
小野克子	世田谷区祖師ヶ谷2-2-4 〒157 TEL 03-482-6229	女子美大	中野進	石川県金沢市出羽町3-1 〒920 TEL	
小作青史	世田谷区羽根木2-32-6 〒157 TEL 03-321-7221	多摩美大	野田哲也	武蔵野市吉祥寺東町2-23-24 〒180 TEL 0422-22-5837	芸大
小山松隆	千葉市花見川9-11-301 〒281 TEL 0472-58-3949	日大	馬場章	浦和市道祖土381-4 長沢荘 〒336 TEL 0488-86-6303	芸大
大本靖	札幌市中央区円山西町491 〒064 TEL 011-611-0722	北海道教育大	馬場精男	横浜市金沢区富岡町1197-186 〒236 TEL 045-772-1770	造形大
鎌谷伸一	横浜市金沢区平潟町31-1-814 〒236 TEL 045-781-1872	女子美大	浜西勝則	川崎市多摩区生田2977 白根方3号 〒214 TEL	東海大
河西万丈	山梨県大月市猿橋殿上483-1 〒409-06 TEL 05542-2-6174	都留文化大	原健	世田谷区野沢3-13-12 〒154 TEL 03-421-2980	造形・日大
河内成幸	世田谷区成城4-30-14 〒157 TEL 03-482-0015	多摩美大	深沢幸雄	千葉県鶴舞308 〒290-04 TEL 043-688-2034	多摩美子
神田融	高松市新町1134-1 〒761-01 TEL	香川大	福岡奉彦	狭山市入間川4-25-23 ハウス2008 〒350-13 TEL 0429-53-7027	女子美大
城所祥	八王子市本町35-6 〒192 TEL 0426-22-5857	武蔵野美大	吹田文明	大田区池上8-16-9 〒143 TEL 03-752-1708	多摩美大
北岡文雄	杉並区和泉2-27-8 〒168 TEL 03-328-3361	武蔵野美大	古野由男	京都市南区唐橋花園町8 〒601 TEL 075-691-3765	滋賀女子短大
清塚紀子	板橋区幸町13-5 〒173 TEL 03-955-2300	造形大	細田政義	世田谷区祖師ヶ谷3-39-8 〒157 TEL 03-482-3052	女子美大
糸野憲治郎	愛知県愛知郡長久手町長湫下権田104-1 茜荘14号 〒480-11 TEL	愛知芸大	前川直	岩手県盛岡市茶畑1-1-6 グリーンビレッジ C-411 〒192-03	岩手大
斎藤寿一	川崎市幸区塚越3-375 〒210 TEL 044-522-2007	和光大	舞原克典	宇山市川田町1548-13 〒524 TEL 07758-3-0028	京都芸大
笹本純	秋田県秋田市泉字嶽根166 三浦方 〒010 TEL	秋田大	松浦昇	岐阜県大垣市上面二丁提唐 〒503 TEL	大垣女子短大
清水昭八	小金井市梶野町4-16-27 〒184 TEL 0423-83-3733	武蔵野美大	松川幸寛	相模原市相原1132 〒229 TEL 0427-73-6058	多摩美大

▶編集後記

- 馬 測 聖 神奈川県茅ヶ崎市芹沢2511
〒253 TEL 0467-51-1497 女子美短大
- 皆川孝一 練馬区小竹町1-73 福寿荘6号
〒176 TEL 日 大
- 富田克人 高知県高知市朝倉乙870
〒780 TEL 高知大
- 宮下登喜雄 府中市新町1-12
〒183 TEL 0423-61-5634 府中大
- 村上文生 京都市右京区太秦原面影町6-1
〒616 TEL 芸 大
- 山野辺義雄 日野市三沢850 高幡台団地6-501
〒191 TEL 0425-91-9456 東海大
- 矢口 洋 宇都宮市峯町350
〒320 TEL 0286-34-7904 宇都宮大
- 横山貞二 小平市上水本町1282 恭荘2号棟D号
〒187 TEL
- 吉原英雄 大阪府高槻市東五百住町3-21-32
〒569 TEL 0726-96-2286 京都芸大
- 吉田穂高 三鷹市井ノ頭1-13-40
〒181 TEL 0422-44-3923 女子美大
- 吉本 弘 愛知県愛知郡日進町岩崎元井ヶ17-97
〒470-01 TEL 愛知芸大
- 渡辺達正 世田谷区喜多見8-5-13 鳥山荘
〒157 TEL 03-416-7017 多摩美大
- 渡辺 満 相模原市橋本5-25-5
〒229 TEL 多摩美大

学芸大学の三橋先生、東京芸大の野見山先生には、心よく寄稿を承諾いただき感謝いたします。又原稿をお寄せ下さいました会員の諸先生方には御多忙の所、有難うございました。

中林先生の実践的素材研究は継続し報告が予定されており、一段と充実した会報となるかと思えます。同様な研究論文、カリキュラム問題、材料、機材に関する情報、又この研究会に関する活動、会報への御提案、御意見ございましたら事務局までお寄せ下さい。

賛助会員の皆様には、広告原稿送附されたもののみ掲載し、紙面の都合上、又研究会の会報という性格上、当初よりスペースが狭くなりました事をお詫するとともに、最後に会報の印刷に御助力いただいた新日本造形の太室様に感謝いたします。

原 健

大学版画研究会 会報第2号 1977年8月

編集スタッフ 小野克子／鎌谷伸一／清塚紀子
原 健／松川幸寛

発行 大学版画研究会

事務局 多摩美術大学版画研究室
〒192-03 東京都八王子市鎌水1723

印刷 新日本造形株式会社・有限会社 西川

▶ 賛助会員名簿

- | | | | |
|------------------------|--|--------------|---|
| 新日本造形 | 中野区新井1-42-8
〒165 TEL 03-389-1221 | 版画ギャラリー | 京都市左京区熊野神社東入ル 京都ハンディ
クラフト・センター 6F
〒606 TEL 075-761-0345 |
| サクラクレパス | 千代田区神田三崎町3-1-16
〒101 TEL 03-263-4221 | 画 箋 堂 | 京都市下京区河原町五条上ル
〒600 TEL 075-791-6131 |
| ヌーベルセンター | 千代田区神田三崎町3-1-16
クレパスビル内ヌーベル
〒101 TEL 03-262-4221 | クラタ商店 | 大阪市鶴見区茨田諸口町1118
〒538 TEL 06-911-6561 |
| 大阪フォーラム画廊 | 中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階
〒104 TEL 03-571-0833 | アート・コア・ギャラリー | 京都市中京区寺町通り三条下ル一筋目東入ル
〒604 TEL 075-223-1760 |
| 日本版画保存会 | 川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方
〒214 TEL 044-911-9041 | 酒 井 民 雄 | 大垣市郭町3丁目 酒井書店
〒503 TEL |
| 徳 永 商 店 | 文京区本郷5-26-8
〒113 TEL 03-811-0401 | 菊 田 商 店 | 文京区本駒込3-8-2
〒113 TEL 03-821-7131 |
| 渡辺木版美術画舗 | 中央区銀座8-6-19
〒104 TEL 03-571-4684 | 横 田 嘉 雄 | 国分寺市本多4-17-6 ふじの荘6号
〒185 TEL |
| 山 田 商 会 | 中央区八重州5-5
〒104 TEL 03-281-1667-8538 | 武蔵野美術学園 | 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
〒180 TEL 0422-22-8171 |
| レッドランタン版画舗 | 京都市東山区新門前通り仲之町236
〒605 TEL 075-561-6314 | シ ロ タ 画 廊 | 中央区銀座7-10-8 高橋ビル地下1階
〒104 TEL 03-572-7971~2 |
| 萩原市蔵商店 | 千代田区神田紺屋町43
〒101 TEL 03-256-3591 | 武蔵野美術学園 | 小平市小川町1-736
〒187 TEL 0423-41-5011 |
| 芸 大 画 翠 | 台東区上野公園12-8 東京芸術大学内
〒100 TEL | | |
| 光村図書出版 | 品川区上大崎2-19-9
〒141 TEL 03-492-2111 | | |
| ペ ン テ ル | 千代田区東神田2-1-6
〒101 TEL 03-866-6161 | | |
| マルチプルアートセンター
(乃村工芸) | 港区芝浦4-6-4 乃村工芸社
〒108 TEL 03-455-1171 | | |
| ギャラリーカブセル | 中央区銀座8-16-10B401 堀江強志
〒104 TEL 03-541-4676 | | |
| び け ん (本店) | 世田谷区尾山台3-33-5
〒158 TEL 03-702-2118 | | |
| 梶 原 商 店 | 渋谷区上原2-33-8
〒151 TEL 03-466-6117 | | |
| 文 房 堂 | 千代田区神田神保町1-21
〒101 TEL 03-291-3441 | | |
| 日 動 画 廊 | 中央区銀座5-3-16
〒104 TEL 03-571-2553 | | |
| 画 荘 ヴィナス | 新宿区西新宿1-15-13 胖ビル内
〒160 TEL 03-346-2728 | | |

■ 広告は原稿送附されたもののみ掲載させていただきます。

木版・銅版・石版画材料

各種エッチングプレス
輸入版画用品・紙類

造形材料総合センター



文房堂

〒101 東京都千代田区神田神保町1-21 ☎(03)291-3441

版画専門メーカー



新日本造形(株)

東京本社 〒165

東京都中野区新井1の42の8 TEL 03-389-1221

大阪支社 〒540

大阪市東区森ノ宮東之町421の3 TEL 06-943-1141

良い版材は良い地金

版画用・銅板・亜鉛板・リト用・ジंक板・アルミ板

有限会社 **萩原市蔵商店**

東京都千代田区神田紺屋町43番地

電話 東京(256)3591番(代表)

版画科 1年修 石版・銅版・木版

武蔵野美術学園

武蔵野市吉祥寺東町3-3-7

石版画用ジंक研磨

版画用材料専門店 **クラタ商店**

大阪市鶴見区茨田諸口町1118

TEL 06-911-6561



大阪フォルム画廊

東京店

東京都中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階

TEL 03-571-0833

名古屋店

名古屋市中区新栄町1-1 明治生命ビル15階

TEL 052-962-5811

株式会社 **梶原商店**

東京都渋谷区上原2丁目33番8号

電話(466)6117(代表)

現代版画

銀座ギャラリー

カプセル

〒104 東京都中央区銀座8-16-10 B401

TEL 541-4676

画材の専門店 **びびん**

版画材料

●本店・世田谷区尾山台3-33-5 ●多摩美術大学売店・八王子市鎌水1723
TEL 702-2118 TEL 76-6636

●八王子市三崎町2-13
TEL 25-5221

中央区銀座5丁目3番16号

株式会社 **日動画廊**

電話(571)2553

鳥ノ子
生産奉書

版画用紙一般

有限
会社

徳永商店

東京都文京区本郷5の26の8

電話03-811-0401(代)

PRINTING OIL COLOURS

版画絵具 油性 **5色セット**

NOVEL ノーベルセンター

画 翠

東京都台東区上野公園

芸術大学内 ☎(821)7056

YOSEIDO GALLERY

養清堂画廊

571-131.2471

洋画・デザイン材料・額縁・石膏像



株式
会社

画荘 **ガイナス**

本店 〒460 名古屋市中区新栄町3-6

TEL <052> 961-0591(代)

東京営業所 〒160 東京都新宿区西新宿1丁目15-13

TEL <03> 346-2728(胖ビル内)



身近に親しむ新しい芸術

**NOMURA
multiple ART**

株式会社 **乃村工藝社**

マルチプル・アート・センター

東京都港区芝浦4丁目6番4号(03)455-1171

(株) 新日本印刷

東京堂

武蔵美術学院

東京美術大学

大塚印刷

印刷局

印刷

印刷

印刷

印刷

印刷

印刷

印刷

印刷

大学版画研究会

事務局 多摩美術大学版画研究室

〒192-03 東京都八王子市鎌水1723 TEL 0426 (76) 8611